

(記・)

二・三五

[タイム]

二俣九〇〇―大滝九三五―沢終了二〇二五―  
〇三〇―登山道一〇四〇―霧の平一一〇五

### ギンゴ沢 (下降)

一九七八年七月十二日  
口・家 真手・口

### 平小屋沢

一九七八年七月二十二日  
務

◆天気(晴)

一〇時四〇分下降を開始する。尾根のすぐ下から細い水流がありナメがはじまる。最初の一五<sup>は</sup>滝は慎重にクライミングダウン。その先も思い出したように小滝をまじえてナメが続く。やがて目の前が切れ落ちて三〇<sup>は</sup>二段の滝が現われる。左岸の樹林帯の中をまいて下る。見上げると下段の一〇<sup>は</sup>は簡単に直登できるし、上段の二〇<sup>は</sup>も何とか登れるかもしれない。この先次々と滝がかかる。下降は意外にむずかしいもので慎重に行動するが、三つは高捲きし、最後の二つはザイルを出して懸垂下降する。すぐ林道がみえてきてギンゴ沢下降終了。

◆天気(晴)  
高倉山につき上げる三本の沢の中で一番下流の平小屋沢に入る。出合は樹林帯の中で暗いが平凡である。イワナやサンショウウオの姿をみながら進む。橋まではまったく平凡。橋を越えた先で三〇<sup>は</sup>の滝に出会った。シャワーで登破しようとしたが水があまりにも冷たすぎ、右岸最後の五<sup>は</sup>位の所でブッシュに逃げこんだ。この先また、まったく平凡。滝一個もなく尾根一本へだてただけのギンゴ沢とは対称的だ。二俣から右に入り尾根上に出る踏跡をたどって帰る。

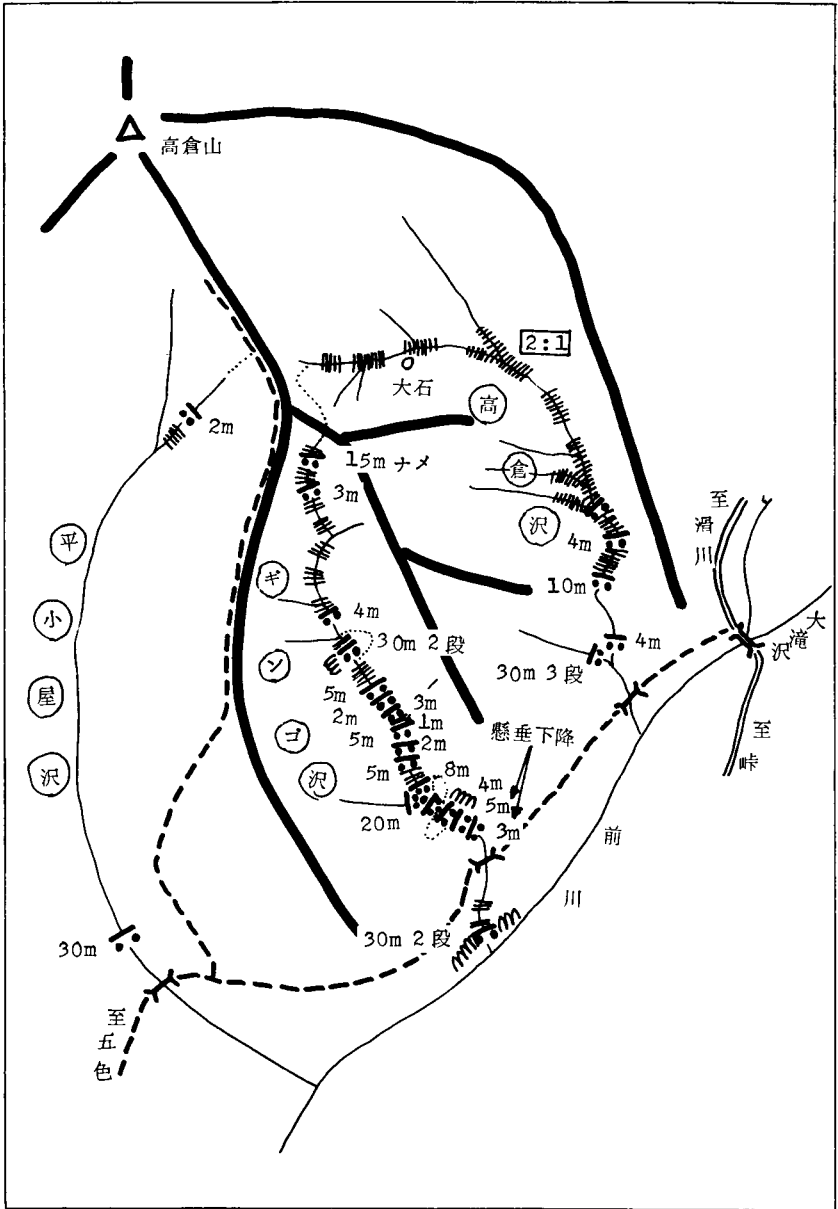
(記・)

[タイム]

下降開始一〇四〇―下降終了一二三〇

[タイム]

出合一〇四〇―林道二二二五―終了(尾根)一



平小屋沢，ギンゴ沢，高倉沢（作図：